

## 中高年齢者の

# 職業選択の条件と希望する働き方

JILPT主任研究員 室山 晴美

### はじめに

仕事が求職者の職業適性に合っているかどうかという観点から職業選択を考えるとすれば、通常、能力と興味の評価を行うことが一般的である。しかし、職業経験のある中高年齢者の再就職の場合には、過去の就業経験や家庭生活、経済的な状況などの生活設計に関わる要素が若年者に比べて重みを持ち、必ずしも能力や興味のレベルだけを考慮して仕事を選ぶことができないケースも多い。そこで、中高年齢者の就職を考える時には、仕事選びに関して求職者がどのような働き方をしたいと思っているのか、具体的にはどんな条件を重視しているのかなど、職業選択やキャリア設計に関連して形成されている基本的な考え方を理解することが大きな手がかりになる。

仕事を選ぶ時に重視する条件や働き方の希望などは、生活全般の中で仕事や働き方をどのように捉えているかに関連して形成された労働や働き方に関する価値観の一部であると捉えることができる。価値観を評価する尺度は過去にもいろいろ開発されているが、中高年齢者に関する価値観を調べるための尺度の一つとして、コンピュータに

よるキャリア・ガイダンスシステム、「キャリア・インサイトMC (Mid Career)」に組み込まれている「価値観評価」(左下の画像)がある。「キャリア・インサイトMC」は、主に三五歳以上で就業経験のある層(ミッド・キャリアと定義)を対象として職業選択やキャリア選択を支援するために開発された。システムは二〇〇七年三月に完成し、現在、公的な職業相談機関を中心として活用が始まったところである(室山、二〇〇六、二〇〇七)。

本稿では、システム開発にあたって実施した調査データに基づき、職業選択の際に重視する条件や希望する働き方などを分析することによって、職業選択に関する価値観からみた中高年齢者の特徴を男女差や年齢による違いなどを含めて考えてみたい(注)。

### 2 調査の概要

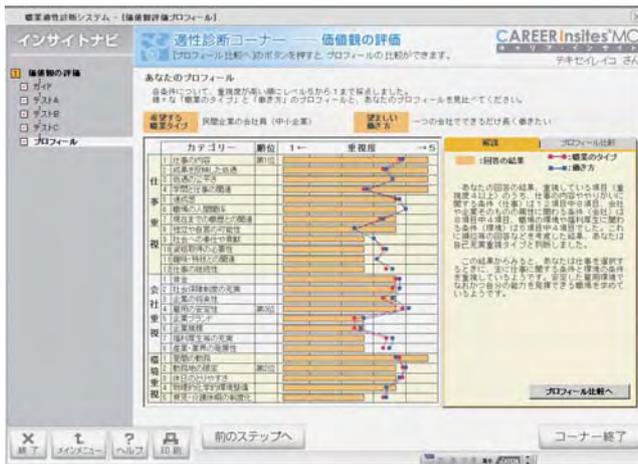
#### (1) 目的と対象者

この調査は、「キャリア・インサイトMC」の開発のため、システムの中に組み

込む四つの適性評価尺度の基準を作成する目的で実施された。大都市圏に住む三〇歳代から六〇歳代の男女で、在職中もしくは過去に職歴があり、現在求職中の者という条件で対象を選定した。

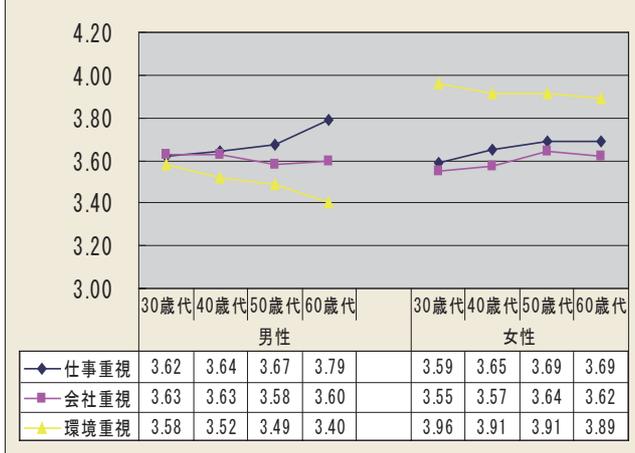
#### (2) 調査方法

調査は調査票の郵送によって実施した。回収は二二三七件(男一〇一八、



図表1 ● 価値観評価のプロフィール

図表2 ● 男女別にみた仕事、会社、環境重視の平均値の年代間比較



#### (3) 調査票の構成

調査票は、適性評価として、能力、興味、価値観、行動特性を測定する尺度、回答者の現在の状況やこれまでの働き方、今後の働き方についての希望に関するアンケートにより構成されている。以下に、価値観評価とアンケートに対する回答を分析した結果を紹介する。

#### 3 調査の結果

##### (1) 職業選択の際に重視する条件

価値観評価では、最初に、仕事を選ぶ時の条件として用意された二五項目

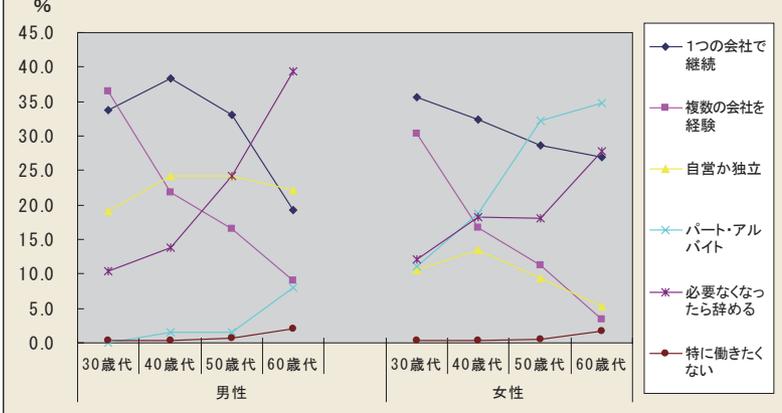


に対し、重視の度合いを「非常に重視する」から「全く重視しない」まで五段階で評価させる。尺度は、「仕事重視（二二項目）」、「会社重視（八項目）」、「環境重視（五項目）」という三つの因子で構成されている。「仕事重視」は、仕事を選ぶときに職務の内容ややりがいを重視する因子、「会社重視」は、会社の知名度や賃金などを重視する因子、「環境重視」は職場環境や福利厚生の実態などを重視する因子である。「キャリア・インサイトMC」のシステムを使った場合には、画面上、因子毎にまとめられた個別項目への重視度がプロフィールの形で表示される（図表1）。

調査データを分析し、三つの因子別の平均値を算出した。得点は一点〜五点で採点し、五に近いほど重視する度合いが高い。重視する要因の平均値に關して、男女や年代による違いが見られたため、男女別、年代別にグラフ化したものが図表2である。

この図から明らかなように、男性と女性では重視度の高い因子が異なる。女性には男性に比べてすべての年齢において「環境重視」が高い点特徴である。特に子育ての時期にある三〇歳代の女性の「環境重視」が高い。ただ、子育てが一段落しつつある四〇歳代以降も「環境重視」は他の因子よりも高

図表3 ● 男女別、年代別に見た希望する働き方の選択 (%)



く、女性が仕事を選ぶときに環境の条件を特に重視することがわかる。なお「仕事重視」、「会社重視」は年代とともにわずかに増加傾向を示すがそれほど大きな変化はない。「会社重視」は三つの因子の中でどの年代でも最も低い。男性の場合は、三〇歳代ではどの因子の重視度も同程度であるが、「環境重視」は年代とともに低くなる。男性はどの年代でも「環境重視」が一番低く、年代が上になるほど「仕事重視」になる。グラフの形を見ると、男性も女性も三〇歳代と、中高年齢者といわれる年代に入る四〇歳代からは重視する条件の傾向が変わってくるようだ。

(2) 今後、希望する働き方の年代別男女別の比較

「キャリア・インサイトMC」の価値観評価では、重視する条件を評定させた後に、「今後、希望する働き方」を選ばせる項目がある。調査では、この項目は調査票の最後のアンケートの中に独立した項目として用意し、回答させた。選択肢には、「一つの会社でできるだけ長く働く」、「状況に応じて転職するなど複数の会社を経験する」、「自営するか独立する」、「就職しないアルバイトやパートで働く」、「働く必要がなくなったら仕事を辞める」、「特に働きたいとは思わない」という六つが用意されており、自分の気持ちに最もあてはまるもの一つを選択させた。

男女別、年代別に各項目の選択率をグラフにまとめたものが図表3である。職業を選択するときに重視する条件と同じく、男性と女性とは回答が大きい

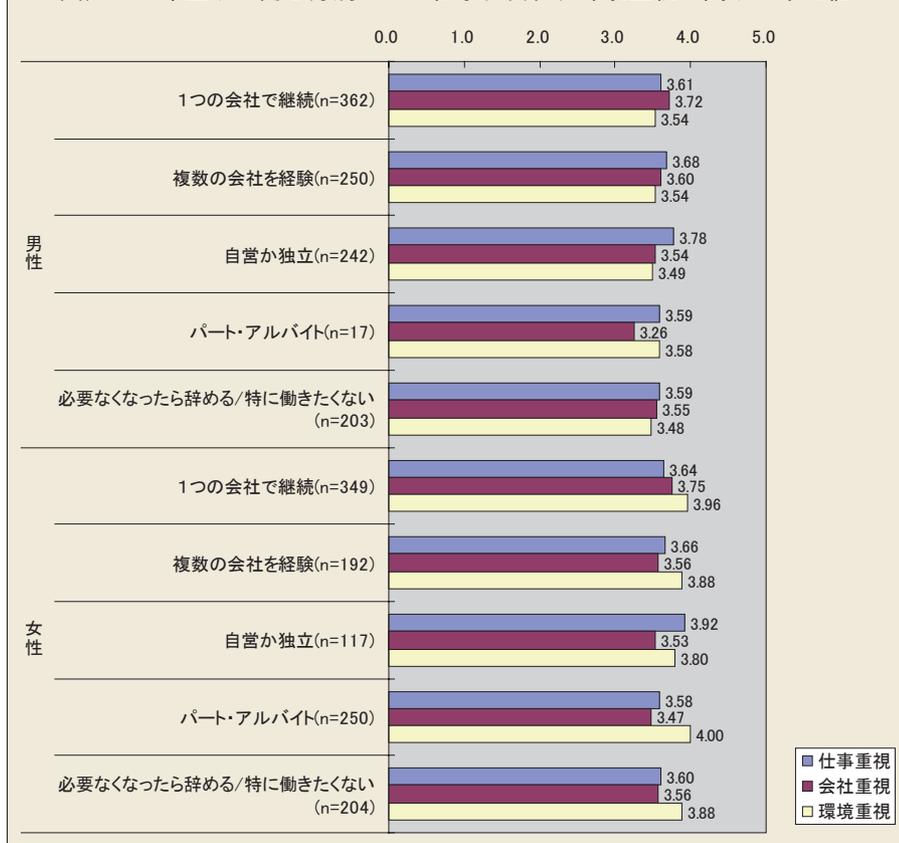
く異なっている。男性と女性で大きく違うのは、「自営するか独立する」という選択肢で、どの年代でも男性の方が女性よりも高い。男性の場合、この働き方は年代を問わずほぼ横ばいで、二〇〜二五%程度の選択率である。どの年代でも女性の方が男性よりも高い項目としては「就職しないでアルバイトやパートで働く」がある。ただ、男性では「就職しないでアルバイトやパートで働く」という回答は、それまではほぼ数パーセントであったものが、六〇歳代になると一〇%程度に増える。

男女問わず、年代とともに選択率が低くなるのは、「複数の会社を経験」という項目である。「一つの会社で継続」も、男性の四〇歳代では少し高くなるものの男女とも年代が高くなると選択率が少なくなる。一方で、選択率が高くなる項目として、男性では「働く必要がなくなったら仕事を辞める」がある。これは年代とともに選択率が高くなり、五〇歳代、六〇歳代では女性の割合を上回る。女性では「就職しないでアルバイトやパートで働く」が年代とともに高くなり、五〇歳代、六〇歳代では他の働き方の選択率を上回る。男性では六〇歳代になったりリタイアを考える人が多いが、女性は非正規の仕事でまだまだ働きたいという人が多くなるようだ。

(3) 重視する条件と働き方の関係

職業選択の時に重視する条件としての三つの因子（「仕事重視」、「会社重視」、「環境重視」）の平均値を希望する働き方別、男女別に算出した（図表4）。年代別に集計すると各グループの人数

図表4 ● 希望する働き方別にみた仕事、会社、環境重視に関する平均値



図表5 ● 希望する働き方別にみた重視する要因間の関係

希望する働き方	重視する要因間の関係	
	男性	女性
1つの会社で継続	会社>仕事&環境	環境>会社>仕事
複数の会社を経験	仕事>環境(会社は中間で、どちらの要因とも有意差なし)	環境>仕事&会社
自営か独立	仕事>会社&環境	仕事&環境>会社
パート・アルバイト	仕事、環境が会社より高め(傾向)	環境>仕事>会社
必要なくなったら辞める/特に働きたい	有意差なし	環境>仕事&会社

※統計的な検定(分散分析)の結果、5%で有意な差がある部分は>で大小関係を示した。

がかなり細分化されるので年代はこみにした。また、「特に働きたいとは思わない」という選択肢は数人しか選ばなかった。「働く必要がなくなったら仕事を辞める」の回答者とあわせて、希望する働き方によって重視する因子がどのように違うのかを検討するため、働き方別に三つの因子の平均値を統計的手法で検定した結果を図表5に示す。

「一つの会社で継続」を選んだ者は、最も「会社重視」である。継続するための条件として会社の規模や安定性が目安になっているようだ。「複数の会社を経験」及び「自営か独立」を選んだ男性の場合は、「仕事」の重視度が高い。男性の場合、全般に「仕事重視」傾向が強いが、「自営か独立」を選んだ者の平均値は全ての働き方の中で最も高かった。また、男性で「パート・アルバイト」を選んだ者は少なく、明確な有意差はみられなかったが、「仕事」

と「環境」が同程度に高く、「会社」の重視度は低めであった。「必要なくなったら辞める/特に働きたい」は、重視する因子に特に目立った差がなかった。女性には、概ね「環境重視」の傾向を示す。その中で「一つの会社で継続」を選ぶ者は「仕事」よりも「会社」に関する条件を重視する。これは男性と同じ傾向である。他の働き方を選ぶ者は「会社」の重視度は三つの因子の中で一番低い。「仕事重視」の傾向が強

いのは「自営か独立」の働き方を選択した者であった。「自営か独立」を選んだ者は「環境重視」の得点も高いが、いろいろな働き方の中で最も「仕事重視」であることは男性と同様の結果である。「複数の会社を経験」を選んだ女性には、仕事や会社よりも環境を重視しており、これは「必要なくなったら辞める/特に働きたい」を選んだ者と同じ傾向である。また「パート・アルバイト」を選んだ者は、他の働き方を選んだ者に比べて、最も「環境」を重視しており、最も「会社」を重視していない。

4 おわりに  
以上、希望する働き方によってどんな条件が重視されるのかを見たところ、男性では概ね仕事重視、女性では環境重視であるなど男女によって若干の違いはあるが、共通点としては、「一つの会社で継続」という希望を持つ者は「会社要因」を重視し、「自営か独立」を選んだ者は「仕事要因」を重視していることがあげられる。

就業経験のある三〇歳代、六〇歳代を対象として職業選択に関わる価値観を調べた結果は、性別によっても年代によっても就職先を選ぶ時に重視する条件が違ったり、望ましいと考える働き方が違ったりすることを示している。そのため、中高年齢者の職業相談の際には、若年者以上に様々な働き方の可能性を考え、本人の希望や価値観に一番合致した方向を検討していくことが必要になるだろう。また、求職者自身も、ある程度の職業経験を積んだ後、それから先、職業人としてのキャリア



をどのくらいの期間まで想定するのか、また、その間にどんな働き方をしたいのかによって、職業を選ぶための条件や視点も変わるはずであることを再認識する必要がある。相談において「キャリア・インサイトMC」を使う場合、価値観評価の結果をみながら、将来に向けた働き方や生き方を含めて、求職者の希望が明確になるように話を展開させてみるのも一つの有効な方法かもしれない。

〔注〕

中高年齢者として扱われる一般的な年齢は四五歳以上であるが、本稿では年代による違いをみるため、調査を実施した三〇歳代からのデータも含めて検討している。

【参考資料】

室山晴美 二〇〇六 中高年齢者向けのガイダンス・システム「キャリア・インサイトMC」の開発、Business Labor Trend 二〇〇六年 p.10-12。  
 室山晴美 二〇〇七 キャリア・プランニングを支援するための新たなガイダンス・システム開発、「ミッド・キャリア層の再就職支援」労働政策研究研修機構 プロジェクト研究シリーズNo.8, p.102-145。

●プロフィール●

むろやま・はるみ／独立行政法人労働政策研究・研修機構主任研究員。博士(学術)。主な著書・論文に、「コンピュータによる職業適性診断システムの利用と評価」(教育心理学研究、二〇〇二年)、「キャリア・インサイト」による個性理解(雇用問題研究会、二〇〇六年)など

# 日本労働研究雑誌

B5判●定価895円(税込)  
 年刊購読料10,740円  
 (〒サービス)

11 No.568 November, 2007  
**特集 = 「投稿論文特集2007 II」**

- |  |                                       |
|--|---------------------------------------|
| 【提言】紛争解決の手段  | 遠藤賢治                                  |
| 【ディialog】労働判例この1年の争点   | 盛 誠吾<br>森戸英幸                          |
| 【論文(投稿)】職務能力向上期間の決定要因<br>労働組合と離職率<br>パートタイマーの基幹労働力が賃金満足度に与える影響<br>——組織内公正性の考え方をてがかりに<br>正規—パート賃金格差と地域別最低賃金の役割<br>——1990年～2001年 | 米田耕士<br>外野光則<br>島貫智行<br>安部由起子<br>田中藍子 |
| 【研究ノート(投稿)】派遣労働者の基幹化とキャリア  | 清水直美                                  |
| 【書評】吉川徹著「学歴と格差・不平等——成熟する日本型学歴社会」<br>佐藤厚編著「業績管理の姿容と人事管理」<br>電機メーカーにみる成果主義・間接雇用化」<br>戎野淑子著「労使関係の変容と人材育成」                         | 原 純輔<br>久本恵夫<br>藤村博之                  |
| 【発表】第30回労働関係図書優秀賞<br>第8回労働関係論文優秀賞  |                                       |
| 【論文 Today】J. ハルレテミー / G. セット<br>「フランス労働法の規制緩和にともなう協約規範の役割の増大」  | 桑村裕美子                                 |
| 【フィールド・アイ】移民労働者と移民法・労働法  | 奥野 寿                                  |

12 No.569 December, 2007  
**特集 = 「時代を背負う労働者」**

- |   |  |
|---|--|
| 【提言】「垂直の世代」か「水平の世代」か  | 猪木武徳                                       |
| 【論文】溶けない氷河——世代効果の展望<br>丙午世代のその後——統計から分かること<br>誕生日と学業成績・最終学歴<br>「団塊の世代」の職業キャリアのタイプおよびその就業形態の選択に与える影響 | 太田晴一・玄田有史・近藤駒子<br>赤林英夫<br>川口大司・森啓明<br>馬 欣欣 |
| 【エッセイ】プロスポーツ界における「黄金世代」と「谷間の世代」<br>——サッカーを例に  | 綱田郁郎                                       |
| 【白書座談会】平成19年版労働経済白書をめぐって——ワークライフバランスと雇用システム<br>石水善夫 / 武石恵美子 / 立道信吾 / 永瀬伸子                           |  |
| 【書評】吉田美善夫著「タイ労働法研究序説」<br>西成田豊著「近代日本労働史——労働力編成の論理と実証」  | 香川孝三<br>山下 亮                               |
| 【論文 Today】H. M. レビン / Z. シュ、蔣世民<br>「現代中国における高等教育卒業生就職難問題——高等教育と労働市場との関わりからみる」                       | 寺崎里水                                       |
| 【フィールド・アイ】政権交代とNLRB 命令の変転   | 奥野 寿                                       |

お問い合わせ先 独立行政法人 労働政策研究・研修機構 研究調整部成果普及課  
 Tel : 03-5903-6263 Fax : 03-5903-6115 E-mail book@jil.go.jp